

決算説明資料  
2020年3月期 年度決算  
(19/4-20/3)

2020年4月27日



JSR Corporation

# 決算ハイライト 1 - 19年度実績 実績vs計画

(億円)

		FY19 Act	FY19 Pro
連結	売上収益	4,720	4,700
	営業利益	329	330
	親会社所有者帰属利益	226	225
エラストマー	売上収益	1,788	1,780
	営業利益	-18	-20
合成樹脂	売上収益	951	950
	営業利益	62	65
デジタルソリューション	売上収益	1,448	1,440
	営業利益	309	315
ライフサイエンス	売上収益	505	505
	営業利益	36	30
その他・調整額	売上収益	28	25
	営業利益	-61	-60
Exchange rate (JPY/USD)		109	108

※継続事業のみ表示

・2020年3月26日に通期業績予想を修正。実績はほぼ業績予想並みで着地した。

# 決算ハイライト 2 - YoY, QoQ

(億円)

		FY18	FY19	YoY	19Q3	19Q4	QoQ
連結	売上収益	4,954	4,720	-5%	1,189	1,129	-5%
	営業利益	453	329	-27%	106	33	-69%
	親会社所有者帰属利益	311	226	-27%	55	36	-33%
エラストマー	売上収益	2,007	1,788	-11%	455	423	-7%
	営業利益	74	-18	-	12	-27	-
合成樹脂	売上収益	1,054	951	-10%	237	224	-5%
	営業利益	92	62	-32%	17	9	-49%
デジタルソリューション	売上収益	1,422	1,448	+2%	352	359	+2%
	営業利益	327	309	-5%	75	63	-16%
ライフサイエンス	売上収益	439	505	+15%	136	118	-14%
	営業利益	8	36	+360%	20	-4	-
その他・調整額	売上収益	31	28	-10%	10	5	-53%
	営業利益	-48	-61	-	-18	-9	-

※継続事業のみ表示

YoY : 減収減益    QoQ : 減収減益

YoY エラストマー・合成樹脂 : 需要環境の影響により、減収減益となった。

デジタルソリューション : 半導体材料は販売増も、ディスプレイ材料の弱い需要環境により減益となった。

ライフサイエンス : 大幅な増収増益を達成。

QoQ エラストマー : 販売数量減、固定資産の減損により大幅減益。 合成樹脂 : 販売数量減により減益。

デジタルソリューション : 販売堅調、主に固定費発生差による減益。 ライフサイエンス : 利益計上タイミングの差異による減益。

# セグメント別損益：エラストマー事業

(億円)

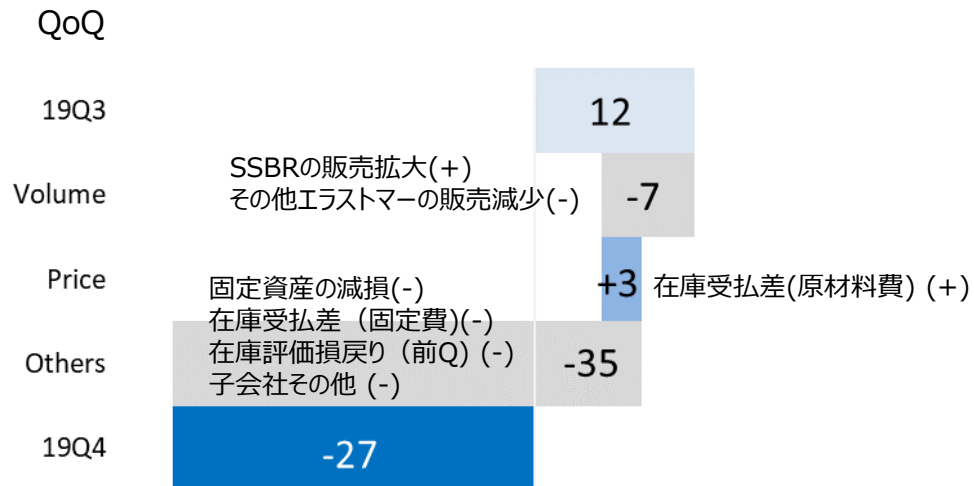
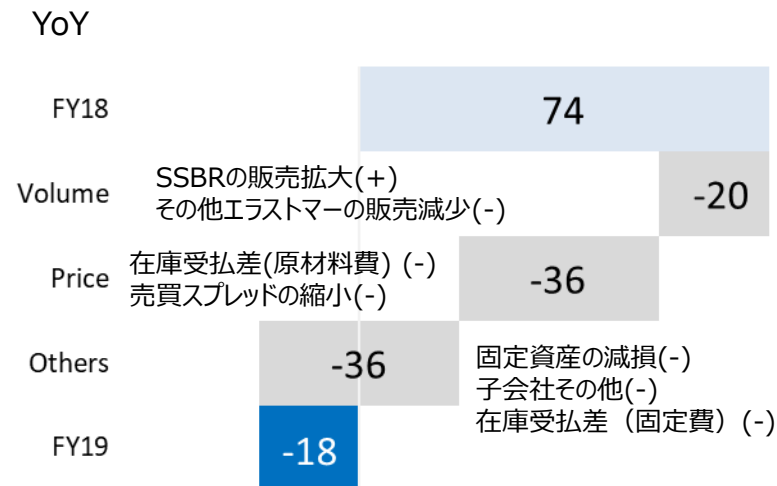
	FY18	FY19	YoY
Sales	2,007	1,788	-11%
OP	74	-18	-
OP margin	3.7%	-	

	19Q3	19Q4	QoQ
Sales	455	423	-7%
OP	12	-27	-
OP margin	2.7%	-	

Sales Volume (Ton)	647,874	611,552	-6%
Exchange rate (JPY/USD)	111	109	-2%

Sales Volume (Ton)	156,715	145,857	-7%
Exchange rate (JPY/USD)	109	109	+0%

営業利益差異分析(億円)



# セグメント別損益：合成樹脂事業

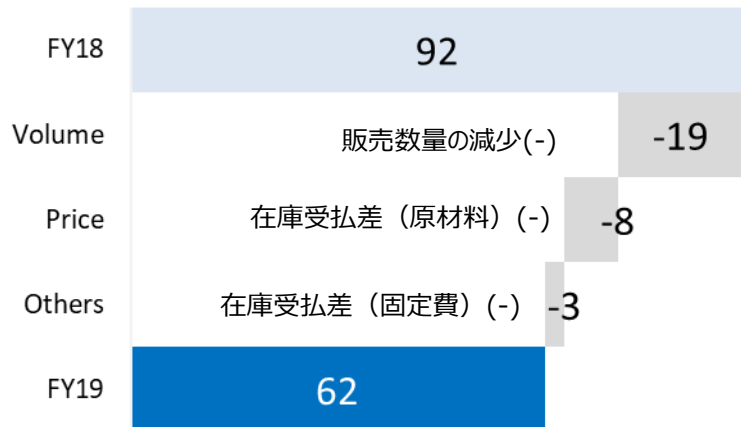
(億円)

	FY18	FY19	YoY	19Q3	19Q4	QoQ
売上収益	1,054	951	-10%	237	224	-5%
営業利益	92	62	-32%	17	9	-49%
営業利益率	8.7%	6.6%		7.3%	3.9%	

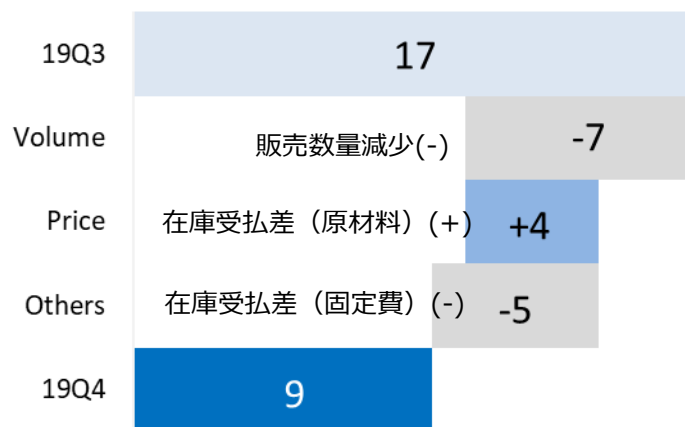
Exchange rate (JPY/USD)	111	109	-2%	109	109	+0%
-------------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

営業利益差異分析(億円)

YoY



QoQ



# セグメント別損益：デジタルソリューション事業

(億円)

	FY18	FY19	YoY	19Q3	19Q4	QoQ
売上収益	1,422	1,448	+2%	352	359	+2%
半導体材料	761	840	+10%	208	220	+6%
ディスプレイ材料	527	490	-7%	122	116	-5%
エッジコンピューティング	134	118	-12%	22	22	+1%
営業利益	327	309	-5%	75	63	-16%
営業利益率	23.0%	21.4%		21.4%	17.6%	

Exchange rate (JPY/USD)	111	109	-2%	109	109	+0%

## 営業利益差異分析(億円)

YoY

FY18

327

Volume

半導体材料、ARTONの販売拡大(+)

+56

Price

販売価格の下落(-)、為替(-)

-52

Others

半導体材料の固定費増加(-)  
廃棄損 (-)

-22

FY19

309

QoQ

19Q3

75

Volume

+2

Price

0

Others

固定費の発生差異 (-)  
廃棄損(-)

-14

19Q4

63

# Appendix : デジタルソリューション事業 主要製品売上推移

SEMI	YoY ytd	QoQ
ArF	105%程度	110%程度
多層材料	105%程度	115%弱
その他リソグラフィ材料	105%程度	95%程度
CMP材料	105%弱	105%程度
洗浄剤	220%程度	90%程度
実装材料	115%強	横ばい
Display	YoY ytd	QoQ
配向膜	90%程度	95%程度
絶縁膜	115%程度	95%程度
着色レジスト	90%程度	95%程度
その他LCD材料	微減	110%程度
Edge	YoY ytd	QoQ
ARTON	115%強	85%強

# セグメント別損益：ライフサイエンス事業

(億円)

	FY18	FY19	YoY
売上収益	439	505	+15%
営業利益	8	36	+360%
営業利益率	1.8%	7.1%	

	19Q3	19Q4	QoQ
	136	118	-14%
	20	-4	-
	14.3%	-	

Exchange rate (JPY/USD)	111	109	-2%
-------------------------	-----	-----	-----

	109	109	+0%
--	-----	-----	-----

## 営業利益差異分析

YoY 売上収益、営業利益共に大きく拡大

- \*診断薬、中間体(IVD)：販売拡大
- \*CDMO(KBI/SELEXIS)：販売大幅拡大
- \*CRO(Crown)：販売拡大

※1: 19Q1及び19Q3の営業利益は、19H2に予定していた利益の前倒し計上、及び会計要因を含む。

※2: Crownの買収は18年5月末完了、翌6月初から連結開始。

QoQ 減収減益

Q3の利益前倒しの影響及びQ4の一時費用による。



# 連結損益計算書

(億円)

	FY18	FY19	YoY
売上収益	4,954	4,720	-5%
売上原価	3,479	3,312	-5%
売上総利益	1,474	1,407	-5%
販管費	1,021	1,043	+2%
その他の営業収益/費用	-6	-36	-
持分法による投資損益	5	1	-88%
営業利益	453	329	-27%
金融収支	11	-3	-
法人所得税	110	69	-38%
非継続事業からの当期利益	-18	3	-
当期利益	336	260	-23%
親会社所有者帰属	311	226	-27%
非支配持分	25	34	+38%
EPS(JPY)	140.62	104.38	-26%
Exchange rate (JPY/USD)	111	109	-2%

# 連結財政状態計算書

(億円)

	19/3E	20/3E	+/-
流動資産	3,390	3,035	-355
現金及び現金同等物	708	619	-89
営業債権及びその他の債権	1,353	1,105	-248
棚卸資産	1,170	1,128	-42
その他	159	182	+23
非流動資産	3,525	3,742	+218
有形固定資産	1,835	2,157	+322
のれん	591	583	-8
その他の無形資産	142	159	+17
その他	957	844	-113
資産 合計	6,914	6,777	-137
流動負債	1,725	1,484	-241
営業債務及びその他の債務	1,181	928	-252
借入金	335	300	-35
その他	209	255	+46
非流動負債	786	919	+133
借入金	508	527	+19
その他	278	392	+114
負債 合計	2,511	2,403	-108
親会社の所有者に帰属する持分	4,020	3,968	-52
非支配持分	384	406	+23
資本 合計	4,404	4,374	-29

資産 -137億円

負債 -108億円

資本 -29億円  
-配当及び自社株買い

自己資本比率  
(親会社所有者持分比率)  
2020/3E : 58.5%  
2019/3E : 58.1%

# 連結CF計算書

(億円)

	FY18	FY19	YoY
営業活動によるCF	309	542	233
税金等調整前当期純利益	442	294	-148
減価償却費	218	264	45
運転資本増減額	-263	-30	234
その他	-88	14	102
投資活動によるCF	-663	-356	307
設備投資	-362	-440	-77
子会社株式取得	-362	0	362
その他	62	84	22
FCF	-353	186	540
財務活動によるCF	-190	-253	-63
自己株式取得	-50	-100	-50
配当金支払	-122	-131	-9
その他	-18	-22	-4
その他	1	-22	-23
現金及び現金同等物増減	-542	-89	453
現金及び現金同等物期末残高	708	619	-89

※継続、非継続両事業を表示

# 通期予想

COVID-19による需要業界及び当社営業活動への影響の予測が難しい状況であるが以下の前提を置いて見通しを策定した。今後状況の変化があれば随時見直しを行っていく。

(億円)

		FY19 Act	FY20 Pro	YoY
連結	売上収益	4,720	4,230	-10%
	営業利益	329	230	-30%
	親会社所有者帰属利益	226	150	-34%
エラストマー	売上収益	1,788	1,450	-19%
	営業利益	-18	-50	-
合成樹脂	売上収益	951	790	-17%
	営業利益	62	40	-36%
デジタルソリューション	売上収益	1,448	1,350	-7%
	半導体材料	840	830	-1%
	ディスプレイ材料	490	420	-14%
	エッジコンピューティング	118	100	-15%
	営業利益	309	240	-22%
ライフサイエンス	売上収益	505	610	+21%
	営業利益	36	55	+53%
その他・調整額	売上収益	28	30	+8%
	営業利益	-61	-55	-

Exchange rate (JPY/USD)	109	109
-------------------------	-----	-----

減価償却費 **	235	280	+19%
資本的支出	459	420	-8%
研究開発費	254	250	-2%

## COVID-19影響\*

	上期	下期
エラストマー	-20%	-10%
合成樹脂	-20%	-10%
半導体	-5%	-5%
ディスプレイ	-10%	-10%
ライフサイエンス	影響考慮せず	
<b>合計</b>	<b>-500億円</b>	

\*COVID-19の影響を含まない当期売上予想に対して

- ・上記の販売減少リスクに対応しコスト抑制を計画に織り込んだ。
- ・ただし成長分野であるデジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業については、中長期視点で能力増強を優先させていく前提とした。

\*\* IFRS16号によるリース資産償却を含まず

※継続事業のみ表示

# 今後の経営の基本的な考え方について

※COVID-19および原油市場の激変のリスクを考慮し、2020年度以降は短期的な危機対応を優先する。  
新中期経営計画については半導体を含むデジタル分野およびライフサイエンス分野を成長の中心に置く。組織のデジタル変革や全社基幹システムの入れ替え等も行い、「サステイナブル」で「レジリエント」なグローバルに事業を展開する従来の方向性を踏襲しつつも、更なる進化を目指す。  
なお、新中期経営計画については危機対応が終了したのちに速やかに公表する。

# JSR20i9(FY17-19) 振り返り

- 全社目標: 営業利益420億円、ROE > 8.0%
- 結果: 半導体材料事業及びライフサイエンス事業が順調に拡大するも、主にエラストマー事業の低迷で2019年度は未達。

## 事業別目標

### ● エラストマー事業、合成樹脂事業(ELA, ABS)

- 目標: SSBRの拡販、合成樹脂の事業統合
- 結果: SSBR 市場を上回る販売拡大(FY17-19 CAGR+8%)を達成。石油化学系事業の事業環境の劇的な変化(原油、スプレッドなどの市況に加え、中国の新規コンビナート等も含めた需給環境の劇的な変化)が発生。又、当社の工場設備の老朽化対策による固定費が増加。合成樹脂事業は健闘したものの、エラストマー事業の悪化により大きく未達。

### ● デジタルソリューション事業(DS)

- 目標: 半導体材料シェア拡大、LCD中国市場集中
- 結果: 半導体材料は市場成長を上回る売上成長を達成し順調に推移。ディスプレイ材料事業は配向膜等競争優位な商品及び今後伸びる中国市場へ傾斜するも、韓国企業の撤退等で厳しい結果となった。

### ● ライフサイエンス事業(LS)

- 目標: 自社材料の拡販とM&A
- 結果: CRO事業の買収も含めトップラインを順調に伸ばし、利益も黒字化、2019年度は500億円の売り上げ及び30億円の営業利益を達成。

### ● 次世代、その他事業(Others/Adjustment)

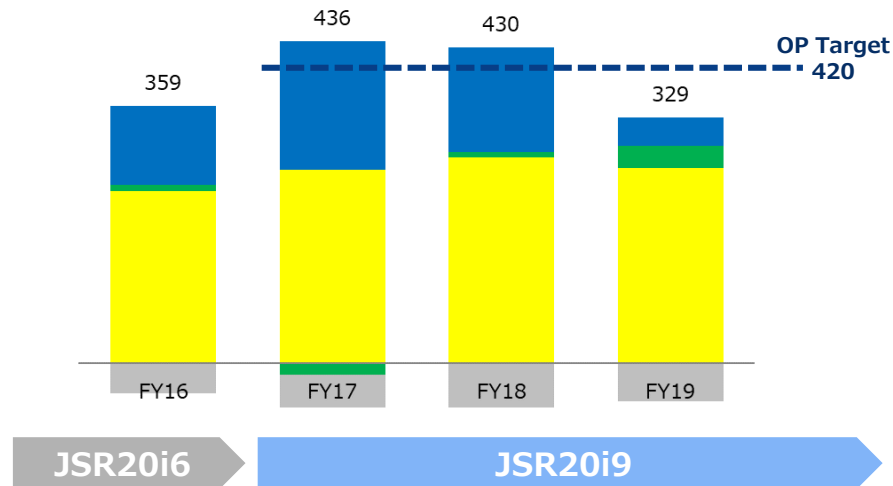
JKiC稼働開始、ノンコア事業の売却(LIC事業)

## 株主還元

総還元性向50%を目安に安定配当及び自社株買いを機動的に実施 (FY17-FY19の総還元性向は60%)

## OP推移

■ DS ■ LS ■ ELA+ABS ■ Others/Adjustment



# 今後の経営の基本的な考え方

## <経営全般>

- ✓ 事業環境（事業・地政学・技術・社会・環境等）の変化に対応できる強靱(レジリエント)な事業構造、経営体制の強化を行う。
- ✓ 半導体材料およびライフサイエンス事業を事業ポートフォリオの中核とし、これら2事業の成長により、全体の利益成長を達成する。
- ✓ 株主が求める利益水準（少なくともROE 2桁）を達成し、株主還元方針(原則50%以上の株主還元率)に基づく還元を行う。
- ✓ 事業の持続的な成長を通じて、全てのステークホルダーに対して価値を創造していく。

## <各事業>

### 半導体材料事業 ライフサイエンス事業

- ✓ イノベーション、能力増強、M&Aを含む事業投資を行い、成果を上げ、全体の利益成長を牽引する。
- ✓ 先端リソ材料のシェア拡大に加え、プロセス材料、実装材料分野での製品ポートフォリオ拡大による売上成長。  
CDMO、バイオプロセス材料、CRO、IVDの各事業及び研究活動の共同による売上成長の実現、価値の創造。

### ディスプレイ材料事業 エッジコンピューティング事業

- ✓ ディ스플레이材料事業は中国市場の集中とコストマネジメントを徹底的に行い、次世代通信分野でのエッジコンピューティング事業の成長と合わせて投下資本に見合った利益水準を達成。

### エラストマー事業 合成樹脂事業

- ✓ 前中計期間中に明確になった事業環境の劇的な変化に対応すべく、事業構造の改革を実行。合成樹脂事業は更なる高付加価値分野への集中を図る。

# 今般の経営環境の激変への対処について

## ＜経営全般＞

- ✓ 需要動向を注意深くモニタリングし、コストの大幅削減、製造体制の変更等を迅速に行える体制を取る。
- ✓ 危機においても事業継続と経営の安定を確保する組織体制、資金力を維持する。
- ✓ コスト抑制を図る一方、持続力のあるレジリエントな企業を目指し、成長事業への投資、デジタルトランスフォーメーション、イノベーションに関わる投資は継続していく。

## ＜個別事業＞

### 半導体材料事業

- ✓ 先端半導体材料の拡販を進めていく。
- ✓ 建設中の米国の洗浄剤工場の立上げ他成長投資は計画通り進めていく。

### ライフサイエンス事業

- ✓ 拡大するCDMO事業、CRO事業の能力増強、資源投入は継続していく。

### ディスプレイ材料事業

- ✓ 中国市場へのシフトが急激に進んでおり、顧客業界の構造変化に対応した製造を含むサプライチェーンの見直しを進める。

### エラストマー事業

- ✓ 事業構造改革に着手。具体策の一部として、製品構成の見直し、コスト低減を行う。投資は最低限のメンテナンスに留め最小化する。



20Q1  
決算発表

2020年7月30日

同日、金融機関向けカンファレンスコールを実施予定

※2020年5月15日に予定していた経営方針説明会は中止致します。

※上記の予定は、都合により予告なく変更となる可能性があります。

・本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。